



# **Cisco Configuration Professional スタートアップ ガイド**

バージョン 1.0

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意  
([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/))をご確認ください。**

**本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。  
米国サイト掲載ドキュメントとの差異が生じる場合があるため、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。  
また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。**

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, Cisco Eos, Cisco Lumin, Cisco StadiumVision, the Cisco logo, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0804R)

*Cisco Configuration Professional スタートアップガイド*  
Copyright © 2008 Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.

Copyright © 2008, シスコシステムズ合同会社 .  
All rights reserved.



## CONTENTS

はじめに	v
対象読者	v
目的	v
ドキュメントの入手とサービス リクエストの送信	v

---

### CHAPTER 1

<b>Configuration Professional とは</b>	1-1
概要	1-1
Cisco CP Express を使用した初期設定	1-2
Cisco CP を使用したデバイスへの接続	1-3
コミュニティの作成とデバイスの追加	1-3
コミュニティの選択とデバイスの検出	1-4
設定方法の基本	1-5

---

### CHAPTER 2

<b>ユーザ インターフェイスの機能</b>	2-1
メニューバー、ツールバー、および機能バー	2-2
メニューバー	2-2
機能バー	2-3
ツールバー	2-3
オンライン ヘルプ	2-4

---

### CHAPTER 3

<b>デバイス コミュニティ</b>	3-1
コミュニティの作成	3-2
コミュニティ ウィザードを使用したコミュニティの作成	3-2
コミュニティ ウィザード画面のリファレンス	3-3
コミュニティ名の入力	3-3
コミュニティ メンバの追加 / 編集	3-3
[ コミュニティ エントリの作成 ] または [ コミュニティ エントリの編集 ]	3-4
完了	3-4
コミュニティの保守	3-6
コミュニティ情報の編集	3-6
コミュニティ保守画面のリファレンス	3-6
コミュニティの選択 / 作成	3-6
コミュニティ情報	3-7

デバイスの検出	3-9
コミュニティの選択とコミュニティメンバの検出	3-9
検出されたデバイスに関する情報の表示	3-9
検出情報画面のリファレンス	3-10
[ 検出の詳細 ] 画面	3-10
[ ルータのステータス ] 画面	3-11
デバイス検出に関する参考情報	3-12
Cisco CP 設定の要件	3-12
セキュアシェル (SSH) のバージョンが正しくない場合の検出の失敗	3-13
デバイスがファイアウォールによって保護されている場合の検出の失敗	3-14
Cisco CP による既存のクレデンシャルの上書き	3-14



# はじめに

---

## 対象読者

このガイドは、スタンドアロンのネットワーク デバイスまたはデバイスのグループの管理にグラフィカル ユーザ インターフェイスを使用したいと考えているシステム管理者やネットワーク マネージャを対象としています。このガイドで説明する Cisco Configuration Professional は、そのような要望に応えるソリューションの 1 つです。

## 目的

このガイドの目的は、Cisco Configuration Professional を初めて使用するユーザに役立つ情報を提供することです。このガイドの内容は、次のとおりです。

- 概要：Cisco Configuration Professional がどのようなアプリケーションで、何ができるかを説明します。
- ユーザ インターフェイスの機能：Cisco Configuration Professional を使用してデバイスやネットワークを管理する方法を説明します。
- コミュニティの計画と作成：コミュニティの計画と作成に関する概念と手順を説明します。

## ドキュメントの入手とサービス リクエストの送信

ドキュメントの入手、サービス リクエストの送信、およびその他の情報の収集については、毎月更新される「What's New in Cisco Product Documentation」を参照してください。この文書には、新規公開または改訂されたシスコ技術文書の一覧もあります。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

「What's New in Cisco Product Documentation」を RSS (Really Simple Syndication) フィードとして登録しておく、コンテンツを直接デスクトップで受け取ることができます。この RSS フィードは無料のサービスです。シスコでは現在 RSS バージョン 2.0 をサポートしています。





# Configuration Professional とは

この章では、Cisco Configuration Professional の概要を説明し、このソフトウェアの使用を開始するために必要な情報を示します。この章の内容は、次のとおりです。

- [概要](#)
- [Cisco CP Express を使用した初期設定](#)
- [Cisco CP を使用したデバイスへの接続](#)
- [設定方法の基本](#)

## 概要

Cisco Configuration Professional は、スタンドアロンのデバイス、およびデバイスのグループ（「コミュニティ」）を管理するためのアプリケーションです。このアプリケーションは、イントラネット内のどこからでも使用できます。グラフィカル インターフェイスを使用して、次のことを実行できます。

- LAN および WAN の接続を設定する。
- ネットワーク アドレス変換（NAT）、仮想プライベート ネットワーク、およびファイアウォールをセットアップする。
- スタティック / ダイナミック ルーティングを設定する。
- コミュニティのワイヤレス LAN 機能（ワイヤレス セキュリティやワイヤレス ゲスト アクセスなど）を設定する。
- ネットワーク セキュリティを設定し、監視する。
- デバイスのステータス（インターフェイス、ファイアウォール、QoS など）を監視する。

このようなタスクを実行するには、該当する機能を Cisco Configuration Professional の機能バーから選択します（「[機能バー](#)」の項（P. 2-3）参照）。

Cisco Configuration Professional Express (Cisco CP Express) は、LAN および WAN の接続の設定、NAT の設定、ファイアウォールの基本設定、およびデバイスを保護するためのセキュリティの基本設定を行うためのプログラムです。Cisco CP Express は、フラッシュ メモリにインストールされます。

## Cisco CP Express を使用した初期設定

デバイスの出荷時に Cisco CP が付属している場合は、用意されている初期設定を使用して、そのデバイスに接続し、Cisco CP Express をすぐに使用できるようになります。デバイスに初めて接続するときは、ここで説明する手順に従ってください。



**(注)** そのデバイスがすでにネットワーク上で使用されており、かつ Cisco CP が PC 上にインストール済みの場合は、このセクションを省略して、「[Cisco CP を使用したデバイスへの接続](#)」に進んでください。

**ステップ 1** デバイスのデフォルト設定ファイルでは、1 つのイーサネット インターフェイス用に IP アドレスが 1 つ設定されます。また、そのデバイスが DHCP サーバとして設定されていることがあります。デバイスが DHCP サーバとして設定されているかどうか、およびどのイーサネット ポートが PC に接続されるかについては、次の表を参照してください。

デバイス モデル	DHCP サーバ	PC を接続するイーサネット ポート
Cisco 815、Cisco 86x、Cisco 88x、Cisco 180x、Cisco 1805、Cisco 1811、および Cisco 1812	はい	ACT Lnk、ETHERNET 10 BASE T、LAN、PWR Lnk、または SWITCH
Cisco 1841、Cisco 1861、Cisco 2801、Cisco 2811	いいえ	Fast Ethernet 0/0
Cisco 28xx、Cisco 38xx	いいえ	Gigabit Ethernet 0/0

**ステップ 2** 表に記載されている、デバイスの適切なポートに PC を接続します。

**ステップ 3** 次のいずれかを実行して、PC の IP アドレスを設定します。

- デバイスが DHCP サーバとして設定されている場合は、PC が IP アドレスを DHCP サーバから受け取るように設定されていることを確認します。
- デバイスが DHCP サーバとして設定されていない場合は、スタティック IP アドレス 10.10.10.2 を PC 上で設定します。サブネット マスクは 255.255.255.248 を使用してください。

**ステップ 4** Internet Explorer ブラウザ ウィンドウを開き、IP アドレス 10.10.10.1 を入力してデバイスに接続し、Cisco CP Express を起動します。

**ステップ 5** Cisco CP Express ウィザードを実行してデバイスを設定します。

初期セットアップが完了し、デバイスに LAN 上の IP アドレスが割り当てられたら、Cisco CP を使用してそのデバイスに接続し、追加の設定を実行することができます。



## Cisco CP を使用したデバイスへの接続

すでにネットワーク上にあるデバイスに Cisco CP を使用して接続するには、次のタスクを実行する必要があります。

- [コミュニティの作成とデバイスの追加](#)
- [コミュニティの選択とデバイスの検出](#)

### コミュニティの作成とデバイスの追加

コミュニティを作成し、そのコミュニティにデバイス（複数可）を追加するには、次の手順に従ってください。

- 
- ステップ 1** [アプリケーション] > [コミュニティの選択 / 作成] をクリックして [コミュニティの選択 / 作成] 画面を表示します。[コミュニティの選択 / 作成] 画面は、Cisco Configuration Professional の起動時にも表示されます。
- ステップ 2** [コミュニティの選択 / 作成] 画面の [作成] をクリックします。[コミュニティ名の入力] ウィザード画面が表示されます。
- ステップ 3** [コミュニティ名の入力] 画面で、コミュニティ名を入力します。次に、[次へ] をクリックします。
- ステップ 4** [コミュニティ メンバの追加 / 編集] ウィザード画面の [作成] をクリックします。[コミュニティ エントリの作成] 画面が表示されます。
- ステップ 5** [コミュニティ エントリの作成] 画面で、追加するデバイスの IP アドレス、ユーザ名、およびパスワードの情報を入力します。次に、[OK] をクリックします。この画面の詳細については、「[コミュニティ ウィザード画面のリファレンス](#)」の項 (P. 3-3) の「[\[コミュニティ エントリの作成\] または \[コミュニティ エントリの編集\]](#)」を参照してください。
- ステップ 6** 別のデバイスをコミュニティに追加するには、[作成] をもう一度クリックして、そのデバイスの IP アドレスと認証情報を入力します。コミュニティに追加されたデバイスは、「コミュニティ メンバ」と呼ばれます。
- ステップ 7** コミュニティのメンバの追加が完了したら、[次へ] をクリックします。コミュニティが作成されたことを示す [完了] 画面が表示されます。この画面から、別のコミュニティを作成することもできます。
- ステップ 8** コミュニティの作成を終了するには、[完了 - ウィザードを終了] をクリックします。後でこのコミュニティに戻って、メンバの追加や設定の変更を実行することができます。
-

## コミュニティの選択とデバイスの検出

デバイスを検出し、CP を使用してそのデバイスの設定を行うには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** [アプリケーション] > [コミュニティの選択 / 作成] をクリックして [コミュニティの選択 / 作成] 画面を表示します。[コミュニティの選択 / 作成] 画面は、Cisco CP の起動時にも表示されます。
- ステップ 2** [コミュニティの選択 / 作成] 画面で、コミュニティの名前を選択します。詳細については、「[コミュニティ保守画面のリファレンス](#)」の「[コミュニティの選択 / 作成](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 下部のボタンバーの [OK] をクリックします。[コミュニティ情報] 画面が表示されます。
- ステップ 4** [コミュニティ情報] 画面で、検出するデバイスのエントリを選択します。詳細については、「[コミュニティ保守画面のリファレンス](#)」の「[コミュニティ情報](#)」を参照してください。
- ステップ 5** [検出] をクリックします。

[コミュニティ エントリの作成] 画面または [コミュニティ エントリの編集] 画面で指定された情報を使用して Cisco CP がデバイスにログインすると、[検出のステータス] フィールドが [検出済み] に変更されます。



**(注)** ネットワークの状態によっては、検出プロセスの完了までに数分間かかることがあります。

デバイスが検出されると、Cisco CP を使用してそのデバイスの設定を表示および変更できるようになります。

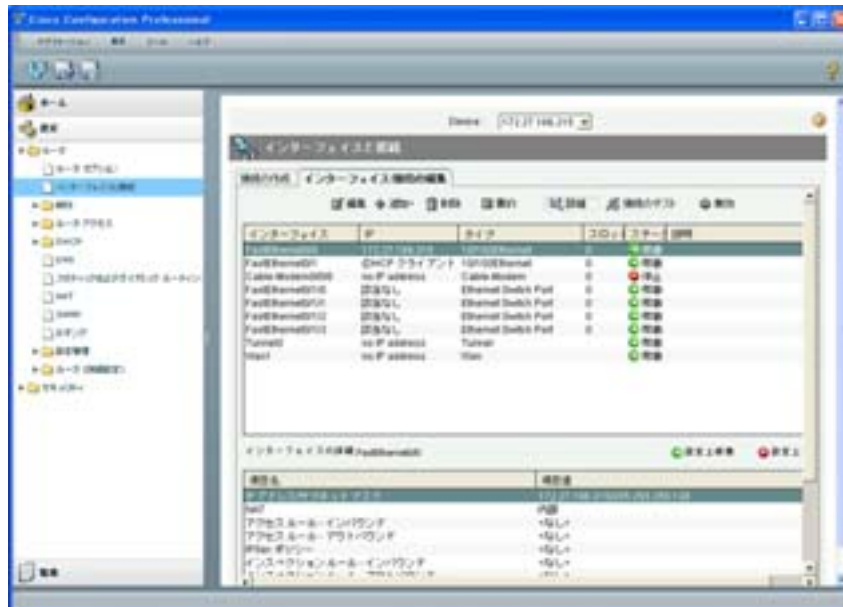
## 設定方法の基本

ここでは、インターフェイス設定画面について説明しながら、設定方法の基本を見ていきます。

設定方法の基本を理解するには、次の手順に従ってください。

- ステップ1** [設定] をクリックします。Cisco CP の画面に、[ルータ] [ルータ (詳細設定)] [セキュリティ] および [セキュリティ (詳細設定)] の各ノードが表示されます。
- ステップ2** [ルータ] > [インターフェイスと接続] > [インターフェイス / 接続の編集] をクリックすると、設定済みの接続が表示されます (図 1-1)。この接続には、Cisco CP Express を使用して設定されたもの、Cisco IOS CLI で設定されたものもあります。

図 1-1 インターフェイス / 接続の編集



- ステップ3** 設定ダイアログを表示するには、接続を選択して [ 編集 ] をクリックします。図 1-2 は、接続を編集するための設定ダイアログです。

図 1-2 [ 接続 ] ダイアログ



このダイアログの他のタブをクリックすると、選択されている接続について設定可能なその他のオプションを表示することができます。

- ステップ4** このダイアログを閉じるには、[ キャンセル ] をクリックします。
- ステップ5** 新しい接続を作成するには、[ 新しい接続の作成 ] をクリックします。[ 接続の作成 ] タブ (図 1-3) では、作成する接続のタイプを選択し、ウィザードを起動して接続を作成することができます。

図 1-3 [ 接続の作成 ] タブ



**ステップ6** ウィザードを起動するには、接続のタイプを選択して [ 新しい接続の作成 ] をクリックします。図 1-4 は、ADSL 接続ウィザードのようこそ画面です。

図 1-4 ADSL 接続ウィザードのようこそ画面



**ステップ7** ウィザードを使用して設定作業を開始するには、[ 次へ ] をクリックします。図 1-5 は、ADSL のカプセル化の画面です。この画面では、使用するカプセル化のタイプを選択します。

図 1-5 ADSL のカプセル化の画面



**ステップ 8** 画面の指示に従って、値を選択または入力します。

**ステップ 9** [次へ] ボタンを使用して以降の各画面に移動し、設定を行います。必須の値をすべて入力すると、ウィザードの要約画面が表示されます。この画面には、ウィザードで入力した値が表示されます。[図 1-6](#) は、ADSL 接続の [要約] 画面です。

**図 1-6** ADSL 接続の [要約] 画面



**ステップ 10** 情報を確認します。変更が必要な場合は、[戻る] をクリックして該当画面に戻り、変更を加えてから [要約] 画面に戻ります。

**ステップ 11** [完了] をクリックすると、変更内容がデバイスに配信されます。

これで、Cisco CP を使用してデバイスを設定する手順の説明は終了です。このガイドの他の章には、Cisco CP に関するさらに詳しい説明があります。

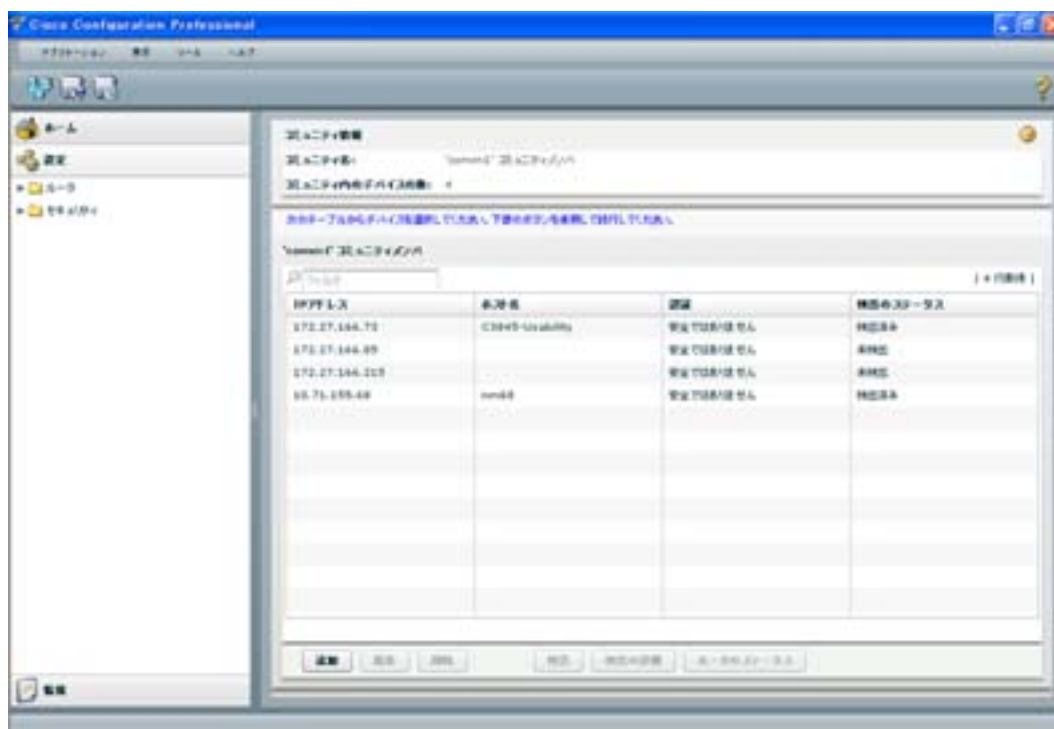
Cisco CP を使用しているときはいつでも、ヘルプ ボタンをクリックすれば、その画面に関する詳細情報を参照することができます。



## ユーザ インターフェイスの機能

Cisco Configuration Professional によって、コミュニティの管理を容易に行うことができます。図 2-1 にユーザ インターフェイスを示します。

図 2-1 Cisco Configuration Professional のユーザ インターフェイス



メニューバーとツールバーを使用して、Cisco Configuration Professional の機能にすばやくアクセスできます。

左側の機能バーには、設定および監視のためのすべての機能がまとめられており、特定の機能だけを表示することもできます。

コンテンツ ペインは、ユーザ インターフェイスの主領域です。ここには、作業対象のコミュニティまたはデバイスに関する情報や、実行している設定タスクの情報が表示されます。

下部のステータス バーには、Cisco Configuration Professional のアクティビティを監視するときに役立つメッセージが表示されます。

「[メニューバー](#)、[ツールバー](#)、[および機能バー](#)」で、ユーザ インターフェイスの各部分について詳しく説明します。

## メニューバー、ツールバー、および機能バー

メニューバーには、Cisco Configuration Professional を設定するための機能が集められています。機能バーには、スタンドアロン デバイスまたはコミュニティの設定、監視、トラブルシューティング、および保守を行うための機能が集められています。ツールバーには、Cisco Configuration Professional の機能のうち、使用頻度の高いものが集められています。

### メニューバー

メニューバーには、Cisco Configuration Professional の管理、画面間の移動、およびオンライン ヘルプへのアクセスのためのオプションが表示されます。

表 2-1 は、メニューの説明です。

表 2-1 メニューバー

メニュー	説明
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しいコミュニティを作成したり、既存のコミュニティを変更したりします。</li> <li>選択したデバイスの実行コンフィギュレーションを PC 上のファイルに保存します。</li> <li>選択したデバイスの実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションに書き込みます。</li> <li>フラッシュのファイルを管理します。</li> </ul>
表示(最初にコミュニティ選択ウィンドウが表示され、そこで表示するデバイスを指定します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択したデバイスの実行コンフィギュレーションを表示します。</li> <li>メニューから選択された <code>show</code> コマンドの結果を表示します。 <pre>show Flash show startup-config show access-lists show diag show interfaces show version show tech-support show environment</pre> </li> <li>デフォルトのアクセスリストルールセットを表示します。</li> </ul>
ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルータ ライセンス サポート</li> <li>ワイヤレス ルータ管理 (ワイヤレス通信をサポートしているルータの場合)</li> <li><code>ping</code> コマンド</li> <li>Telnet コマンド</li> </ul>
ヘルプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルプ システムを表示します。</li> <li>バージョン情報を表示します。</li> </ul>






## 機能バー

機能バーには、使用可能な機能が表示されます。機能は、各メニューの下にグループ化されています。メニュー項目をクリックすると、その機能の設定ウィンドウが表示されます。

表 2-2 は、機能バーの説明です。

表 2-2 機能バー





機能アイコン	機能名	説明
	ホーム	コミュニティを作成します。コンテンツ ペインに表示されたデバイスのコミュニティを変更するには、この機能グループのダッシュボードを使用します。
	設定	データ ルーティングとネットワーク セキュリティを設定します。変更する設定データのタイプを選択します。ワークスペースで設定データを入力します。
	監視	ネットワーク内のデバイスのステータスを表示します。

## ツールバー

ツールバーには、使用頻度の高い設定オプションのボタンや、オンライン ヘルプなどの情報ウィンドウを表示するためのボタンがあります。

表 2-3 は、ツールの説明です。

表 2-3 ツールバー

ツールアイコン	ツール名	説明
	コミュニティの選択 / 作成	[ コミュニティの選択 / 作成 ] ウィンドウを使用して、新しいコミュニティを作成するか、既存のコミュニティを変更します。
	実行コンフィギュレーションを PC に保存	アクティブなデバイスの実行コンフィギュレーションを PC 上のテキスト ファイルにコピーします。
	スタートアップへの書き込み	選択したデバイスの実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに書き込みます。
	ヘルプ	オンライン ヘルプが開き、アクティブなウィンドウの説明が表示されます。アクティブなウィンドウがない場合は、「概要」トピックが表示されます。

## オンライン ヘルプ

Cisco Configuration Professional には、総合的なオンライン ヘルプが付属しています。このヘルプには、設定タスクの実行のためのネットワーキング機能手順に関するバックグラウンド情報や、各設定画面の説明が記載されています。



## デバイス コミュニティ

---

Cisco Configuration Professional (Cisco CP) では、管理者がログインして管理できるデバイスのコミュニティを作成できます。コミュニティ情報が保存されると、コミュニティ内の各デバイスの IP アドレスとクレデンシャルが Cisco CP で記憶されます。管理者は、コミュニティを選択してからログイン先のデバイスを選択するだけで、コミュニティ内のデバイスにログインできます。

この章の内容は、次のとおりです。

- [コミュニティの作成](#)
- [コミュニティの保守](#)
- [デバイスの検出](#)

## コミュニティの作成

Cisco CP には、画面に示される手順に従ってコミュニティを作成できるウィザードが用意されています。ここでは、このウィザードの使用方法和ウィザードの個々の画面について説明します。各セクションの内容は、次のとおりです。

- [コミュニティ ウィザードを使用したコミュニティの作成](#)
- [コミュニティ ウィザード画面のリファレンス](#)

### コミュニティ ウィザードを使用したコミュニティの作成

コミュニティ ウィザードを使用してコミュニティを作成するには、次の手順に従ってください。

- 
- ステップ 1** [コミュニティの選択/作成] ボタンをクリックして [コミュニティの選択/作成] 画面を表示します。[コミュニティの選択/作成] 画面は、Cisco CP の起動時にも表示されます。
- ステップ 2** [コミュニティの選択/作成] 画面の [作成] をクリックします。[コミュニティ名の入力] ウィザード画面が表示されます。
- ステップ 3** [コミュニティ名の入力] 画面で、コミュニティ名を入力します。次に、[次へ] をクリックします。
- ステップ 4** [コミュニティ メンバの追加/編集] ウィザード画面の [作成] をクリックします。[コミュニティ エントリの作成] 画面が表示されます。
- ステップ 5** [コミュニティ エントリの作成] 画面で、コミュニティ メンバの IP アドレス、ユーザ名、およびパスワードの情報を入力します。次に、[OK] をクリックします。この画面の詳細については、「[コミュニティ ウィザード画面のリファレンス](#)」の項 (P. 3-3) の「[\[コミュニティ エントリの作成\]](#)」または「[\[コミュニティ エントリの編集\]](#)」を参照してください。
- ステップ 6** 別のコミュニティ メンバを追加するには、[作成] をもう一度クリックして、そのコミュニティ メンバの IP アドレスと認証情報を入力します。
- ステップ 7** コミュニティのメンバの追加が完了したら、[次へ] をクリックします。コミュニティが作成されたことを示す [完了] 画面が表示されます。この画面から、別のコミュニティを作成することもできます。
- ステップ 8** [完了] 画面で、別のコミュニティを作成するかコミュニティ ウィザードを終了するかを選択します。
- 別のコミュニティを作成するには、[他のコミュニティの作成] をクリックして [OK] をクリックします。次に、[ステップ 3](#) 以降をもう一度実行します。
  - コミュニティ ウィザードを終了するには、[完了 - ウィザードを終了] をクリックします。
-

## コミュニティ ウィザード画面のリファレンス

次の各トピックで、コミュニティ ウィザードの画面について説明します。

- [コミュニティ名の入力](#)
- [コミュニティ メンバの追加 / 編集](#)
- [\[ コミュニティ エントリの作成 \]](#) または [\[ コミュニティ エントリの編集 \]](#)
- [完了](#)

### コミュニティ名の入力

[ コミュニティ名の入力 ] 画面では、デバイスのコミュニティの名前を入力します。

#### この画面へのアクセス方法

- ツールバーの [ コミュニティの選択 / 作成 ] > [ 作成 ] をクリックします。
- [ アプリケーション ] > [ コミュニティの選択 / 作成 ] > [ 作成 ] をクリックします。

#### フィールド リファレンス

表 3-1 コミュニティ名

要素	説明
新しいコミュニティ名の入力	コミュニティ名を入力します。この名前は、このコミュニティ内にあるデバイスにアクセスするときに使用します。名前には、スペースを含めることができます。たとえば、「comm 1」という名前を使用できます。

### コミュニティ メンバの追加 / 編集

[ コミュニティ メンバの追加 / 編集 ] 画面では、コミュニティ メンバの作成、コミュニティ メンバの設定の編集、および作成しているコミュニティの全メンバーの一覧表示が可能です。

#### この画面へのアクセス方法

- ツールバーの [ コミュニティの選択 / 作成 ] > [ 作成 ] > [ 次へ ] をクリックします。
- [ アプリケーション ] > [ コミュニティの選択 / 作成 ] > [ 作成 ] > [ 次へ ] をクリックします。

#### 関連リンク

- [コミュニティ情報](#)

#### フィールド リファレンス

表 3-2 コミュニティ メンバの追加 / 編集

要素	説明
コミュニティ名	[ コミュニティ名の入力 ] 画面で入力したコミュニティ名です。
フィルタ	指定のテキストが含まれているエントリだけを表示するには、そのテキストをフィルタ ボックスに入力します。表示は、1 文字入力するたびに更新されます。
IP アドレス	コミュニティに追加されたデバイスの IP アドレスです。デバイスが 1 つも追加されていない場合は、このコラムに IP アドレスは表示されません。

表 3-2 コミュニティ メンバの追加 / 編集 (続き)

要素	説明
作成	コミュニティにデバイスを追加するには、[作成]をクリックしてからデバイスの IP アドレスを入力し、そのデバイス上で設定されているユーザ名とパスワードを入力します。
編集	コミュニティ メンバの情報を編集するには、コミュニティ メンバのエントリを選択して [編集] をクリックし、表示されたダイアログで IP アドレス、ユーザ名、およびパスワードの情報を編集します。
削除	メンバをコミュニティから削除するには、コミュニティ メンバのエントリを選択して [削除] をクリックします。
ルータのステータス	コミュニティ メンバのハードウェア、ソフトウェア、および機能の詳細情報を表示するには、そのメンバのエントリを選択して [ルータのステータス] をクリックします。

## [コミュニティ エントリの作成] または [コミュニティ エントリの編集]

[コミュニティ エントリの作成] 画面と [コミュニティ エントリの編集] 画面では、コミュニティ内のデバイスの IP アドレス、ユーザ名、およびパスワードを入力します。

### この画面へのアクセス方法

- ツールバーの [コミュニティの選択 / 作成] > [作成] > [次へ] > [作成] をクリックします。
- [アプリケーション] [コミュニティの選択 / 作成] > [作成] [次へ] [作成] をクリックします。
- [アプリケーション] > [コミュニティの選択 / 作成] > <コミュニティ名> > [OK] > [作成] をクリックします。
- [アプリケーション] > [コミュニティの選択 / 作成] > <コミュニティ名> > [OK] > <コミュニティメンバエントリ> > [編集] をクリックします。

### フィールド リファレンス

表 3-3 コミュニティ情報

要素	説明
IP アドレス	デバイスの IP アドレスをドット区切り 10 進表記で入力します (たとえば、192.168.233.332)。
ルータのログイン名	ルータへのログインに使用するユーザ名を入力します。
ルータのパスワード	入力したユーザ名に対応するパスワードを入力します。
<b>認証の有効化</b>	
ルータのパスワードと同じ	enable パスワードと [ルータのパスワード] フィールドに入力されたルータ パスワードが同一の場合は、このチェック ボックスを選択します。
イネーブルパスワード	enable パスワードと [ルータのパスワード] フィールドに入力されたルータ パスワードが異なる場合は、このフィールドに enable パスワードを入力します。

## 完了

コミュニティ ウィザードの [完了] 画面では、ウィザードをもう一度起動して別のコミュニティを作成することも、ウィザードを終了することもできます。

**この画面へのアクセス方法**

- ツールバーの [コミュニティの選択 / 作成] > [作成] > [次へ] > [次へ] をクリックします。
- [アプリケーション] [コミュニティの選択 / 作成] > [作成] [次へ] [次へ] をクリックします。

**フィールドリファレンス**

表 3-4 [完了]画面のボタン

要素	説明
他のコミュニティの作成	他のコミュニティを作成するには、[他のコミュニティの作成] をクリックして [OK] をクリックします。
完了 - ウィザードを終了	別のコミュニティを作成しない場合は、[完了 - ウィザードを終了] をクリックして [完了] をクリックします。

## コミュニティの保守

コミュニティ メンバは、追加したり削除したりできます。また、コミュニティ メンバの情報を編集することもできます。このセクションの内容は、次のとおりです。

- [コミュニティ情報の編集](#)
- [コミュニティ保守画面のリファレンス](#)

## コミュニティ情報の編集

コミュニティの情報を編集するには、次の手順に従ってください。

---

**ステップ 1** [アプリケーション] > [コミュニティの選択 / 作成] をクリックします。[コミュニティの選択 / 作成] 画面が表示されます。[コミュニティの選択 / 作成] 画面は、Cisco CP の起動時にも表示されます。

**ステップ 2** [コミュニティの選択 / 作成] 画面で、コミュニティの名前を選択します。

**ステップ 3** 下部のボタンバーの [OK] をクリックします。[コミュニティ情報] 画面が表示されます。詳細については、「[コミュニティ保守画面のリファレンス](#)」の「[コミュニティ情報](#)」を参照してください。

**ステップ 4** [コミュニティ情報] 画面で、必要な変更を加えます。

- 新しいコミュニティ メンバを追加するには、[作成] をクリックし、コミュニティ メンバの情報を入力します。
- メンバをコミュニティから削除するには、削除するメンバのエントリを選択して [削除] をクリックします。
- コミュニティ メンバの情報を編集するには、メンバのエントリを選択して [編集] をクリックします。次に、[コミュニティエントリの編集] 画面で情報を編集します。詳細については、「[コミュニティ ウィザード画面のリファレンス](#)」の「[\[コミュニティ エントリの作成\] または \[コミュニティ エントリの編集\]](#)」を参照してください。

変更した情報はすべて自動的に保存されます。

---

## コミュニティ保守画面のリファレンス

次の各セクションで、コミュニティの保守に使用する画面について説明します。

- [コミュニティの選択 / 作成](#)
- [コミュニティ情報](#)
- [\[コミュニティ エントリの作成\] または \[コミュニティ エントリの編集\]](#)

## コミュニティの選択 / 作成

[コミュニティの選択 / 作成] 画面は、管理対象の既存のコミュニティを選択するとき、または新しいコミュニティを作成するときに使用します。

### この画面へのアクセス方法

- [コミュニティの選択 / 作成] 画面は、Cisco CP の起動時に自動的に表示されます。
- ツールバーの [コミュニティの選択 / 作成] をクリックします。
- [アプリケーション] > [コミュニティの選択 / 作成] をクリックします。



## フィールドリファレンス

表 3-5 コミュニティの選択または作成

要素	説明
フィルタ	指定のテキストが含まれているエントリだけを表示するには、そのテキストをフィルタ ボックスに入力します。表示は、1 文字入力するたびに更新されます。
名前	コミュニティの名前 (たとえば「comm 1」) です。
メンバの数	コミュニティ内のメンバの数です。
作成	コミュニティ ウィザードを起動するには、[ 作成 ] をクリックします。
削除	コミュニティの情報を削除するには、コミュニティのエントリを選択して [ 削除 ] をクリックします。
OK	管理対象のコミュニティを選択するには、コミュニティのエントリを選択して [ OK ] をクリックします。
キャンセル	[ コミュニティの選択 / 作成 ] ウィンドウを閉じるには、[ キャンセル ] をクリックします。

## コミュニティ情報

[ コミュニティ情報 ] 画面には、コミュニティの情報の要約が表示されます。この画面では、各コミュニティ メンバの検出、作成、編集、およびステータスの確認が可能です。

## この画面へのアクセス方法

- ツールバーの [ コミュニティの選択 / 作成 ] > < コミュニティ名 > > [ OK ] をクリックします。
- [ アプリケーション ] > [ コミュニティの選択 / 作成 ] > < コミュニティ名 > > [ OK ] をクリックします。

## 関連リンク

- [コミュニティ メンバの追加 / 編集](#)

## フィールドリファレンス

表 3-6 コミュニティ情報

要素	説明
<b>コミュニティ情報</b>	
コミュニティ名	コミュニティの名前です。
コミュニティ内のデバイスの数	コミュニティ内のデバイスの数です。
<b>コミュニティ メンバ</b>	
フィルタ	指定のテキストが含まれているエントリだけを表示するには、そのテキストをフィルタ ボックスに入力します。表示は、1 文字入力するたびに更新されます。
IP アドレス	コミュニティ メンバの IP アドレスです。
ホスト名	IP アドレスに対応するホスト名がある場合は、その名前。
検出のステータス	このカラムには、次のいずれかの値が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 検出済み ]: デバイスは検出済みで、使用可能です。</li> <li>• [ 未検出 ]: デバイスは検出されていません。</li> </ul>

表 3-6 コミュニティ情報 ( 続き )

要素	説明
<b>ボタン</b>	
作成	コミュニティにメンバを追加するには、[ 作成 ] をクリックして、表示されたダイアログで IP アドレス、ユーザ名、およびパスワードの情報を入力します。
編集	コミュニティメンバの情報を編集するには、コミュニティメンバのエントリを選択して [ 編集 ] をクリックし、表示されたダイアログで IP アドレス、ユーザ名、およびパスワードの情報を編集します。
削除	メンバをコミュニティから削除するには、コミュニティメンバのエントリを選択して [ 削除 ] をクリックします。
検出	コミュニティメンバを検出するには、検出する各メンバのエントリを選択して [ 検出 ] をクリックします。
検出の詳細	デバイスのコミュニティステータスに関する詳細情報を表示するには、メンバのエントリを選択して [ 検出の詳細 ] をクリックします。
ルータのステータス	コミュニティメンバのハードウェア、ソフトウェア、および機能の詳細情報を表示するには、そのメンバのエントリを選択して [ ルータのステータス ] をクリックします。

## デバイスの検出

デバイスにログインして設定を変更するには、デバイスが属するコミュニティを選択してからそのデバイスを検出する必要があります。ここでは、その方法を説明します。各セクションの内容は、次のとおりです。

- [コミュニティの選択とコミュニティ メンバの検出](#)
- [検出されたデバイスに関する情報の表示](#)
- [デバイス検出に関する参考情報](#)

### コミュニティの選択とコミュニティ メンバの検出

コミュニティを選択してコミュニティ メンバを選択するには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** [アプリケーション] > [コミュニティの選択/作成] をクリックして [コミュニティの選択/作成] 画面を表示します。[コミュニティの選択/作成] 画面は、Cisco CP の起動時にも表示されます。
- ステップ 2** [コミュニティの選択/作成] 画面で、コミュニティの名前を選択します。詳細については、「[コミュニティ保守画面のリファレンス](#)」の「[コミュニティの選択/作成](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 下部のボタンの [OK] をクリックします。[コミュニティ情報] 画面が表示されます。
- ステップ 4** [コミュニティ情報] 画面で、検出するデバイスのエントリを選択します。詳細については、「[コミュニティ保守画面のリファレンス](#)」の「[コミュニティ情報](#)」を参照してください。
- ステップ 5** [検出] をクリックします。

[コミュニティ エントリの作成] 画面または [コミュニティ エントリの編集] 画面で指定された情報を使用して Cisco CP がデバイスにログインすると、[検出のステータス] フィールドが [検出済み] に変更されます。



(注) 検出プロセスが完了までには、数分間かかることがあります。

デバイスが検出されると、Cisco CP を使用してそのデバイスの設定を表示および変更できるようになります。

### 検出されたデバイスに関する情報の表示

検出されたデバイスに関して検出プロセスで取得された情報、およびそれらのデバイスに関するハードウェアとソフトウェアの情報を表示できます。

検出されたデバイスに関する情報を表示するには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** [コミュニティ情報] ウィンドウで、情報を表示する検出済みデバイスを選択します。

## ■ デバイスの検出

**ステップ2** 次のいずれの方法で、このデバイスに関する情報を取得します。

- 検出プロセスによって生成された情報を取得するには、[ 検出の詳細 ] をクリックします。
- デバイスに関するハードウェアとソフトウェアの情報を取得するには、[ ルータのステータス ] をクリックします。

**ステップ3** 現在の情報ウィンドウを閉じるには、[ OK ] をクリックします。

## 検出情報画面のリファレンス

次の各セクションで、検出済みデバイスに関する情報の表示に使用する画面について説明します。

- [\[ 検出の詳細 \] 画面](#)
- [\[ ルータのステータス \] 画面](#)

### [ 検出の詳細 ] 画面

デバイスの検出に成功すると、この画面にデバイスの検出プロセスのパフォーマンス情報が表示されます。検出に失敗した場合は、この画面に失敗の理由が表示されます。

#### この画面へのアクセス方法

- ツールバーの [ コミュニティの選択 / 作成 ] > < コミュニティ名 > > [ OK ] をクリックします。
- [ アプリケーション ] > [ コミュニティの選択 / 作成 ] > < コミュニティ名 > > [ OK ] > < IP アドレス > > [ 検出の詳細 ] をクリックします。

#### 関連リンク

- [デバイス検出に関する参考情報](#)

#### フィールド リファレンス

表 3-7 検出の詳細

要素	説明
検出成功	検出に成功したときは、検出のパフォーマンス データと、検出されたソフトウェア機能に関する情報が表示されます。
ハードウェア検出	このフィールドには、デバイスの検出に使用された方法が表示されます。表示される方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ Telnet ]: 非セキュア オプションを選択した場合に、デバイス検出時に使用される方法です。</li> <li>• [ SSH ]: セキュア オプションを選択した場合に、デバイス検出時に使用される方法です。</li> </ul>
ハードウェア検出に要した時間	ハードウェア機能 ( インターフェイスやネットワーク モジュールなど ) の検出に要した時間の長さです。時間はミリ秒単位で表示されます。
セキュリティ機能使用可能	Cisco CP のセキュリティ機能が使用可能な状態になるのに要した時間の長さです。時間はミリ秒単位で表示されます。
すべての機能検出に要した時間	Cisco CP の全機能が使用可能になるのに要した時間の長さです。時間はミリ秒単位で表示されます。

表 3-7 検出の詳細（続き）

要素	説明
すべての検出に要した時間	ハードウェアとソフトウェアの全機能の検出に要した合計時間の長さです。時間はミリ秒単位で表示されます。
要約	ハードウェアとソフトウェアの全機能が正常に検出された場合は、この行に「すべての機能が正常に検出されました。」と表示されます。
検出失敗	デバイスを検出できなかったときは、失敗の理由が表示されます。
失敗メッセージの例	Ping が失敗しました。  Ping エラー : 10.78.237.105 へは接続できません。ネットワークの接続性を確認してください。

## [ ルータのステータス ] 画面

この画面には、検出されたデバイスに関するハードウェアとソフトウェアの詳細情報が表示されません。

### この画面へのアクセス方法

- ツールバーの [ コミュニティの選択 / 作成 ] > < コミュニティ名 > > [ OK ] > < IP アドレス > > [ ルータのステータス ] をクリックします。
- [ アプリケーション ] > [ コミュニティの選択 / 作成 ] > < コミュニティ名 > > [ OK ] > < IP アドレス > > [ ルータのステータス ] をクリックします。

### フィールドリファレンス

表 3-8 [ ルータのステータス ] のフィールド

要素	説明
<b>ハードウェアの詳細</b>	
モデルタイプ	デバイスのモデルタイプ（たとえば Cisco 3825）です。
使用可能メモリ / 合計メモリ	使用可能なメモリの大きさと合計メモリの大きさがメガバイト単位で表示されます（たとえば「109/256 MB」）。
フラッシュの合計容量	フラッシュメモリの容量がメガバイト単位で表示されます（たとえば「61 MB」）。
<b>ソフトウェアの詳細</b>	
IOS バージョン	Cisco IOS のバージョンです（たとえば「12.4(11)T」）。
IOS イメージ	Cisco IOS イメージの名前です（たとえば「c3825-adventerprisek9-mz.124-11.T」）。
ホスト名	ホスト名が設定されている場合は表示されます。たとえば、「c3825-1」です。
<b>機能の可用性</b>	
IP	IP ルーティング機能が使用可能な場合は、緑色のアイコンが表示されます。  IP ルーティング機能が使用不可能な場合は、赤色のアイコンが表示されます。

表 3-8 [ルータのステータス]のフィールド(続き)

要素	説明
ファイアウォール	ファイアウォール機能が使用可能な場合は、緑色のアイコンが表示されます。  ファイアウォール機能が使用不可能な場合は、赤色のアイコンが表示されます。
VPN	仮想プライベート ネットワーク (VPN) 機能が使用可能な場合は、緑色のアイコンが表示されます。  仮想プライベート ネットワーク (VPN) 機能が使用不可能な場合は、赤色のアイコンが表示されます。
IPS	侵入防止システム (IPS) 機能が使用可能な場合は、緑色のアイコンが表示されます。  侵入防止システム (IPS) 機能が使用不可能な場合は、赤色のアイコンが表示されます。
NAC	ネットワーク アクセス コントロール (NAC) 機能が使用可能な場合は、緑色のアイコンが表示されます。  ネットワーク アクセス コントロール (NAC) 機能が使用不可能な場合は、赤色のアイコンが表示されます。

## デバイス検出に関する参考情報

ここでは、デバイスを検出できない場合の参考となるように、検出プロセスについて説明します。各セクションの内容は、次のとおりです。

- [Cisco CP 設定の要件](#)
- [セキュア シェル \(SSH\) のバージョンが正しくない場合の検出の失敗](#)
- [デバイスがファイアウォールによって保護されている場合の検出の失敗](#)
- [Cisco CP による既存のクレデンシャルの上書き](#)

## Cisco CP 設定の要件

検出が正常に実行されるようにするには、デバイスを正しく設定する必要があります。以下の設定項目に問題がないかどうかを確認してください。

- サポートされるデバイス：検出するデバイスは、Cisco CP によってサポートされているデバイスでなければなりません。『*Release Notes for Cisco Configuration Professional*』を参照してください。このリリース ノートへのリンクは、このヘルプトピックの終わりに記載されています。
- 正しいユーザ名とパスワード：デバイス上で設定されているユーザ名とパスワードを使用する必要があります。
- 正しい権限レベル：[コミュニティ メンバの追加] 画面または [コミュニティ メンバの編集] 画面で入力されるユーザ アカウントの権限レベルは 15 でなければなりません。
- vty 回線：Cisco CP とデバイスとの間で確立されるセッションごとに 1 本の vty 回線が使用可能でなければなりません。Cisco CP からデバイスに接続するには、少なくとも 1 本の vty 回線が必要です。CP を使用してデバイス上で別のアプリケーションを起動する場合は、追加のセッションごとに 1 本の vty 回線が必要です。
- vty 回線のトランスポート入力：vty トランスポート入力が、セキュア接続の場合は ssh、非セキュア接続の場合は telnet に設定されている必要があります。

- セキュリティ設定：次のようにセキュリティが設定されている必要があります。
  - ip http server：非セキュア アクセスの場合
  - ip http secure-server：セキュア アクセスの場合
  - ip http authentication local
- プロトコルおよび暗号化の設定：その他の設定、たとえばネットワークへのアクセスを制限するためのファイアウォールやネットワーク アクセス コントロールなどの機能が、検出の妨げとなっていないことを確認してください。

Cisco CP の設定の要件は、『*Release Notes for Cisco Configuration Professional*』に記載されています。また、Cisco CP と共に購入するデバイスに付属しているデフォルトのコンフィギュレーション ファイルには基本的設定が定義されており、この設定を使用すれば検出は正常に実行されます。

リリース ノートを手入手するには、次のリンクにアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/ciscocp>

[ Support ] ボックスの [ General Information ] > [ Release Notes ] をクリックします。[ Release Notes ] ページに、最新のリリース ノートがあります。

## セキュア シェル (SSH) のバージョンが正しくない場合の検出の失敗

検出するデバイスで使用されているセキュア シェル (SSH) のバージョンが 1.99 や 2.0 ではない場合は、検出に失敗することがあります。この問題を解消するには、バージョンをアップデートする必要があります。デバイスで使用されている SSH のバージョンを確認し、必要に応じて、バージョンをアップデートして RSA キーを再生成するには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** デバイスで使用されている SSH のバージョンを確認するために、EXEC モード コマンド `show ip ssh` を入力します。コマンドの入力と出力の例を次に示します。

```
c3845-1(config)# show ip ssh
SSH Enabled - version 1.5
Authentication timeout: 120 secs; Authentication retries: 3
c3845-1(config)#
```



- (注)** 表示されたバージョンが 1.99 の場合は、SSH のバージョンを 2.0 にアップデートする必要はありません。

- ステップ 2** SSH をバージョン 2 にアップデートするには、Exec モードで `ip ssh version 2` コマンドを入力します。次に例を示します。

```
c3845-1(config)# ip ssh version 2
```

**ステップ 3** 新しいRSA キーを生成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで `crypto key generate rsa` コマンドを入力します。次に例を示します。

```
c3845-1(config)# crypto key generate rsa
The name for the keys will be name.domain.com
Choose the size of the key modulus in the range of 360 to 2048 for your General
Purpose Keys. Choosing a key modulus greater than 512 may take a few minutes.

How many bits in the modulus [512]: 768
% Generating 768 bit RSA keys, keys will be non-exportable...[OK]
c3845-1(config)# end
c3845-1# wr
```

この手順を完了すると、設定の変更が実行コンフィギュレーションに反映され、スタートアップ コンフィギュレーションに保存されます。これで、SSH のバージョンの問題による検出の失敗は解消されます。

### デバイスがファイアウォールによって保護されている場合の検出の失敗

検出するデバイスがファイアウォールの背後に配置されている場合は、Cisco CP からデバイスへの ping ( デバイスにログオンする前に実行するテスト ) を実行できないため、検出に失敗することがあります。

検出するデバイスがファイアウォールで保護されており、検出に失敗する場合は、次のいずれかの方法で対処してください。

- ネットワーク内の PC を、ファイアウォールの背後ではない場所に移動する。
- Cisco CP を実行する PC にネットワーク内の現在位置からのアクセスを許可するように、ファイアウォールの設定を修正する。
- Cisco IOS を使用してこのデバイスを管理する。

### Cisco CP による既存のクレデンシャルの上書き

デバイスをコミュニティに追加するとき、デフォルトのユーザ名 `cisco` とパスワード `cisco` を入力した場合は、セキュリティの問題を回避するために新しいクレデンシャルの作成が必要であることを通知するメッセージが表示されます。指定した新しいクレデンシャルを使用して管理用ユーザが作成され、権限レベル 15 が与えられます。入力したクレデンシャルが設定済みのものである場合は、Cisco CP によってそのクレデンシャルが上書きされ、デバイス検出時に権限レベル 15 が与えられます。既存のユーザ アカウントやデフォルトのクレデンシャル `cisco/cisco` が上書きされるのを避けたい場合は、Cisco CP によるログインに使用するクレデンシャルとして別のものを入力してください。





## INDEX

- P
- ping コマンド 2-2
- S
- show コマンド 2-2
- T
- Telnet 2-2
- あ
- アクセス リスト ルール セット 2-2
- か
- 画面
    - 完了 1-3, 3-2, 3-4
    - コミュニティ エントリの作成 1-3, 3-2, 3-4
    - コミュニティ エントリの編集 3-4
    - コミュニティ メンバの追加 / 編集 1-3, 3-2, 3-3
    - コミュニティ情報 3-7
    - コミュニティ名の入力 1-3, 3-2, 3-3
    - 選択 / 作成 3-6
- き
- 機能
    - 機能バー 2-3
    - ツールバー 2-3
    - メニューバー 2-2
  - 機能バー 2-3
- け
- 検出
    - Cisco CP によるクレデンシャルの上書き 3-14
    - セキュア シェル (SSH) のバージョンの問題 3-13
    - 設定の要件 3-12
    - ファイアウォールの存在が原因の失敗 3-14
- こ
- コミュニティ
    - 作成 2-2, 3-2
    - コミュニティ ウィザードを使用 3-2
    - 情報の表示 3-7
    - 名前 3-3, 3-7
    - 変更 2-2
    - 編集 3-6
    - 保守 3-6
    - メンバの数 3-7
- し
- 実行コンフィギュレーション
    - 表示 2-2
    - ファイルに保存 2-2
- た
- ダッシュボード 2-3
- つ
- ツールバー 2-3

て

手順

- コミュニティ情報の編集 3-6
- コミュニティの作成 3-2
- コミュニティの選択とコミュニティメンバの検出 3-9

デバイス

- IP アドレス 3-3, 3-4, 3-7
- 検出 3-9
- 検出ステータス 3-7
- 検出の詳細 3-8
- ステータス 3-4
- ハードウェア、ソフトウェア、および機能の詳細情報 3-8
- パスワード 3-4
- ホスト名 3-7
- ログイン 3-4

に

認証

- enable パスワード 3-4
- パスワード 3-4
- ログイン 3-4

は

- バージョン情報 2-2

ひ

表示

- フィルタリング 3-3, 3-7

ふ

- フィルタリング表示 3-3
- フラッシュ 2-2
- プロセス
  - デバイス情報の表示 3-9

へ

ヘルプシステム

- 表示 2-2

め

- メニューバー 2-2

ら

- ライセンス 2-2

る

- ルールセット 2-2

わ

- ワイヤレス デバイス 2-2